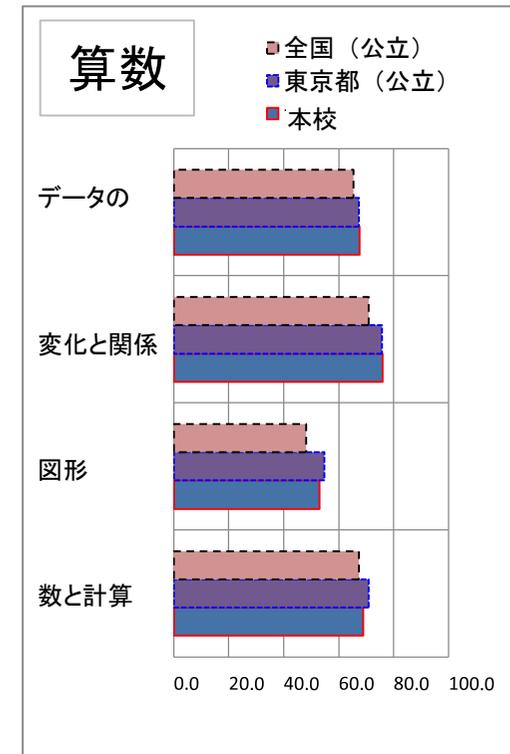
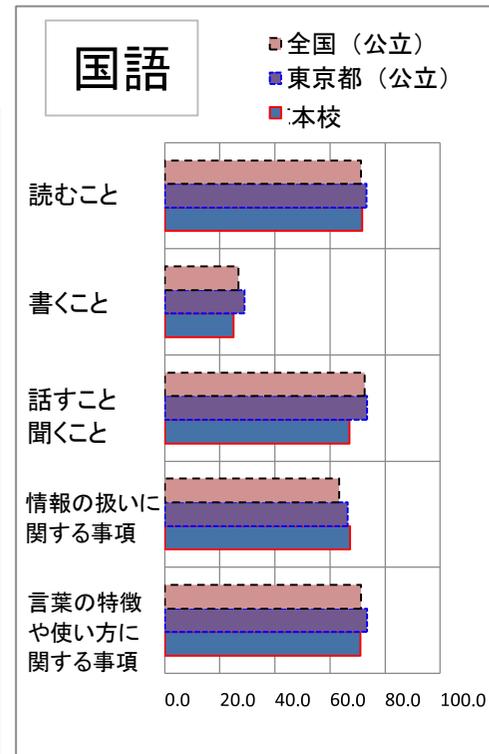
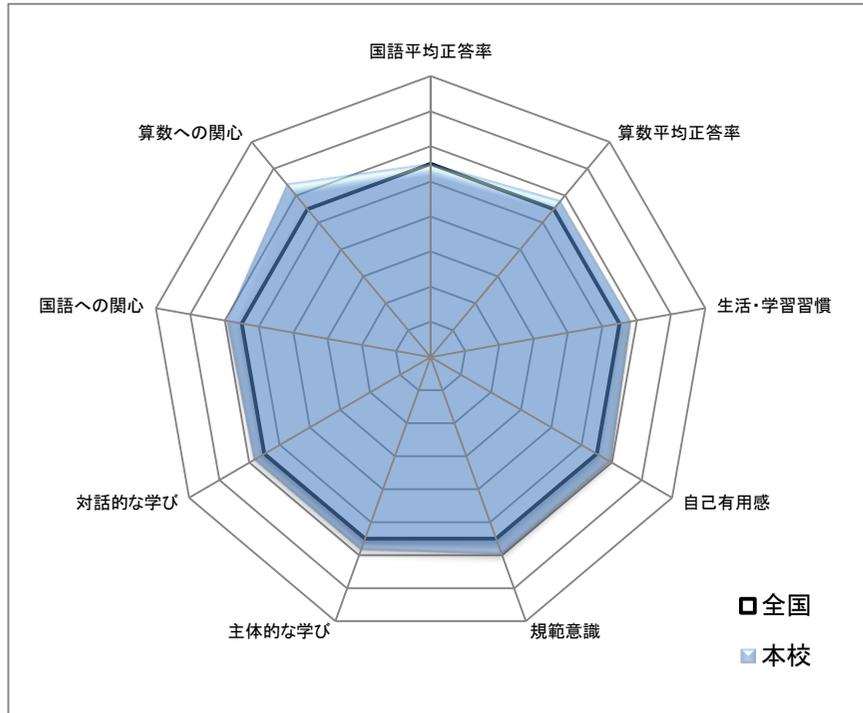


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表 (小学校)

江戸川区立小松川第二小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



上のチャートは、国語と算数の平均正答率と児童質問紙調査から分かった「児童の学習や生活に関する関心」について、全国を母数とした本校の調査結果を示したものである。本校の調査結果を見ると、国語科、算数科、それぞれ苦手としている分野の問題はあるが、ほぼ全国平均であることが分かる。

児童の学習や生活に関する関心では、自己有用感や国語、算数への関心など、ほぼ全国平均を上回り、バランスのとれたチャートとなっている。

《家庭・地域への働きかけ》

国語、算数の平均正答率が全国平均であることから、少しずつ家庭学習の習慣が定着していることがうかがえる。今後もさらに、ICTを活用したドリル学習の課題などを計画的に実施し、さらなる基礎学力の定着を図る。

《現状把握》

国語、算数ともにほぼ全国平均となっている。ただし、国語に関しては、「書くこと」の分野の数値が平均正答率25%と低く、苦手としていることが分かった。また、記述式解答も50%と他と比較すると低い正答率となっている。算数に関しては、全国平均を4%上回る結果となった。全体的に60から70%台の正答率だが、図形、記述式解答では、50%台と正答率が落ち、課題が見られる。

《授業改善のポイント》

思考力、判断力、表現力を伸ばすための学習活動を多く取り入れていく。国語では文章全体の構成を捉え、要約する学習活動を取り入れたたり、授業中のグループ活動で、自分の考えを他者と伝え合う活動を多く取り入れたたりしていく。算数では、丁寧な指導を行い、個の能力に応じた学習ができるようにしていく。また、自力解決だけでなく、他者に自分の考えを説明したり、図や式を使って自分がどのように考えたのか児童同士伝える活動を多く取り入れたたりしていく。